令和7年3月4日

市川中保護者の皆様

令6年度　学校評価の報告

市川三郷町立市川中学校
校　長 村　松　章　史

はじめに

今年度は、感染症対策を適宜行いながら、全ての学校行事、教育活動を実施することができました。実施にあたり学校グランドデザインの具現化につながっているか、持続可能でみんなが幸せと思える内容となっているかという視点に基づき、企画・運営をしてまいりました。

保護者の皆様には、本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、誠に感謝申し上げます。

1 目的について

学校教育法第42条により、「小学校(中学校)は文部科学省の定めるところにより、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、教育水準の向上に努めなくてはならない。」とある。本校では、4月に学校長より提示されたグランドデザインに基づく本校の教育活動が適正に運営されているかを評価し、今後の教育活動をより良きものにしていくための対策を講ずることを目的とし実施した。

2 実施計画

11月	6日（水）	職員会議（項目・内容検討）
12月	3日（火）	保護者へ依頼文書発出　生徒アンケート・保護者アンケート・職員自己評価　開始
	6日（金）	生徒アンケート回答〆切
	9日（月）	保護者アンケート回答〆切
	11日（水）	職員自己評価回答〆切
1月	15日（水）	職員会議にて結果の考察および改善策の検討
2月	27日（木）	学校評価に対しての学校関係者評価の開催
3月	4日（火）	学校評価の考察と改善に向けての方向性を保護者に公表 学校評価の概要を教育委員会に提出

3 アンケート・自己評価の項目

学校グランドデザインに示した各領域ごとに質問事項を設けた。(別紙参照)

項目数は、対象によって異なる。

4 アンケート・自己評価の評価方法

A・B・C・Dの4段階評価を行い、各評価の割合比較を行った。特に、グランドデザイン「取組の指標」に焦点をあて、達成状況を分析した。

5 グランドデザイン「取組の指標」に対する学校評価の考察

・報告書に示す通りです。（別紙参照）

令和６年度 市川中学校 グランドデザイン

学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた「たくましい生徒」の育成

スクール・モットー

敬　愛
一人一人が
大切にされる学校

めざす学校像
1. 学ぶことが楽しい学校
2. 活気があり、笑顔のあふれる学校
3. 地域が応援し、保護者が信頼する学校

めざす生徒像
1. 自ら考え、主体的に学ぶ生徒（知）
2. 他者を敬い、想像力・感性豊かな生徒（徳）
3. 心身の健康に努め、自己管理をする生徒（体）

めざす教師像
1. 生徒、保護者の思いに寄り添った丁寧な指導に努める教師
2. 高い専門性を発揮し、質の高い授業の創造に努める教師
3. 学び合い、助け合い、高め合える教師

今年度の重点取組及び分掌		取組の指標
確かな学力の育成	○学習者を主体とした授業づくり（全） ○ＩＣＴ機器の積極的な活用（全） ○校内研・授業交流を中心としたOJTの充実（塩島） ○家庭学習の習慣化と内容の充実（佐野司） ○外国語教育の充実（丹沢） ○個に応じた丁寧な進路指導の推進（清水） ○豊かな学びのための有効な予算執行（渡邊新）	あなたは授業内容が理解できていますか。 学校評価AB85%以上 あなたは、家庭学習に積極的に取り組んでいますか。 学校評価AB80%以上 ＩＣＴ機器をまとめや発表でどの程度使用していますか。 全国学力調査週1回以上が60%以上
豊かな心の育成	○いじめを「許さない」「させない」指導の徹底（丹沢） ○不登校を未然に防ぐための保護者やＳＣ・ＳＳＷ等との連携（教頭・丹沢） ○「考え議論する道徳」の推進（望月俊） ○あいさつの推進（平嶋） ○生徒会活動を通したＳＤＧｓの推進（松野） ○合唱活動の充実（渡邊聖） ○読書活動の推進（松野・渡邊和） ○インクルーシブ教育の推進と特別な支援の充実（上田）	いじめを許さない雰囲気がありますか。 学校評価AB90%以上 友達の大切さがわかり、互いに励まし合い、高め合う努力をしていますか。 道徳調査A70%以上 図書貸し出し冊数 全校で1000冊以上
健康・安全	○生徒自ら行う健康管理の推進（高井） ○家庭と連携した健康教育の推進（高井） ○「SNS利用宣言」の継続的取組（望月俊） ○体力テストの結果分析と体力向上の取組（塩澤） ○メリハリのある部活動の推進（塩澤） ○防災防犯訓練等の計画的な実施（教頭） ○校内環境美化の推進（廣瀬・山田） ○生きる力を育む食育の推進（山本）	学校生活は楽しく充実していますか。 学校評価AB85%以上 平日の就寝時刻が零時以降の割合（睡眠の確保・メディア使用時間の低減） 保健調査15%以内 立ち幅跳びの4月と10月の記録 新体力テスト10cm増
地域との連携	○学校ホームページの充実（井上） ○各種「たより」の計画的な発行（各担当） ○地域学校協働本部の活動の充実（教頭） ○学校・家庭・地域連携推進協議会の活動の充実（井上） ○小中連携の推進（塩島） ○みさと学の推進（井上）	学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていますか。 学校評価AB85%以上 小中連携が図られていますか。 学校評価A50%以上

令和６年度　学校評価自己評価項目

市川三郷町立市川中学校

職員

確かな学力の育成に関して

①わかる、できる、出番のある授業が図られた。
② ICT 機器の積極的な活用が図られた。
③個に応じた学習指導の充実が図られた。
④校内研・授業交流を中心とした OJT の充実が図られた。
⑤家庭学習の習慣化と内容の充実が図られた。
⑥外国語教育の充実が図られた。
⑦個に応じた丁寧な進路指導の推進が図られた。
⑧豊かな学びのための有効な予算執行が図られた

豊かな心の育成に関して

⑨いじめを「許さない」「させない」指導の徹底が図られた。
⑩不登校を未然に防ぐための保護者や SC・SSW 等との連携が図られた。
⑪「考え議論する道徳」の推進が図られた。
⑫あいさつ運動の推進が図られた。
⑬生徒会活動を通した SDG ｓの推進が図られた。
⑭合唱活動の充実が図られた。
⑮読書活動の推進が図られた。
⑯インクルーシブ教育の推進と特別な支援の充実が図られた。

健康・安全に関して

⑰生徒自ら行う健康管理の推進が図られた。
⑱家庭と連携した健康教育の推進が図られた。
⑲「SNS 利用宣言」の継続的な取組が図られた。
⑳体力テストの結果分析と課題の改善が図られた。
㉑メリハリのある部活動の推進が図られた。
㉒防災防犯訓練等の計画的な実施が図られた。
㉓校内環境美化の推進が図られた。
㉔生きる力を育む食育の推進が図られた。

地域との連携に関して

㉕学校ホームページの充実が図られた。
㉖各種「たより」の計画的な発行が図られた。
㉗地域学校協働本部の活動の充実が図られた。
㉘学家地連の活動の充実が図られた。
㉙小中連携の充実が図られた。
㉚みさと学（ふるさとキャリア教育）の推進が図られた。

記述欄　成果・課題・意見

令和６年度　学校評価自己評価項目

市川三郷町立市川中学校

生徒

確かな学力の育成に関して

①あなたは，授業内容が理解できていますか。
②先生方は，分かりやすくするために，ICT の活用（パソコンやタブレットなど）や教材教具の工夫をしていますか。
③先生方は，あなたの学力や学習に対する頑張りを正しく評価していますか。
④あなたは，自主学習ノートなどの家庭学習に積極的に取り組んでいますか。

豊かな心の育成に関して

⑤学校生活は，楽しく充実していますか。
⑥学校には，いじめを許さない雰囲気がありますか。
⑦あなたは，友だち，先生方，来校者などにしっかりあいさつをしていますか。
⑧あなたは，他人には思いやりをもって接していますか。
⑨あなたは，自分以外の人のために何かしようと心がけていますか。
⑩あなたは，学級活動や委員会活動，部活動に積極的に取り組んでいますか。
⑪あなたには，困った時に相談にのってくれる友だちや先生がいますか。
⑫先生方は，生徒に寄り添ったていねいな指導をしていますか。

健康・安全に関して

⑬あなたは，健康や安全に十分注意して生活していますか。
⑭あなたは，体力向上のために積極的に運動に取り組んでいますか。
⑮あなたは，防災学習（避難訓練を含む）に真剣に取り組んでいますか。

地域との連携に関して

⑯学校は，生徒の様子を積極的に文書やホームページで発信していますか。
⑰あなたは、地域を学ぶまたは地域で学ぶ学習に積極的に取り組んでいますか。
⑱あなたは地域行事へ積極的に参加していますか。

記述欄
・よりよい市川中学校での生活をしていくために，何か意見や要望があったら書いてください。

保護者

確かな学力の育成に関して

①お子さんは，家庭学習を含め，意欲的に学習に向かっている。
②教師は，分かりやすい授業に努めている。
③教師は，お子さんの学力や学習に対する頑張りを正しく評価している。

豊かな心の育成に関して

④お子さんは，豊かな心（思いやりの心など）が育っている。
⑤学校は，いじめのない，正義が通る学校づくりに努めている。

健康・安全に関して

⑥学校は，生徒の安心安全について細かく配慮している。
⑦お子さんは生活リズム，ＳＮＳの使い方について気を付けている。

地域との連携に関して

⑧学校は，家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている。
⑨学校は，保護者や地域との連携に努めている。

記述欄
家庭・地域と連携し，よりよい市川中を築き上げていくために，ご意見，ご要望等をお寄せください。

家庭数配付　　令和6年度　学校評価の報告

市川三郷町立市川中学校
校　長　　村 松 章 史

グランドデザイン「取組の指標」に対する学校評価の考察

評価　A:思う　　B:まあまあ思う　　C:あまり思わない　　D:思わない
（１）→1学期の結果数値　　（２）→2学期の結果数値　　達成：青　未達成：赤

Ⅰ．確かな学力の育成に関して

●①あなたは授業内容が理解できていますか？（取組の指標：AB 85%以上）
〈集計結果及び状況分析〉
・生徒：「A･B」と回答した生徒が（1）94%（2）94%、「D」と回答した生徒は（2)は0人 だった。多くの生徒は、授業内容の理解を自覚している様子が伺える。
・保護者：「教師は分かりやすい授業に努めている」において、「A･B」が約90%と回答があり、保護者からも高い評価を得ることが出来ている。
・職員：2学期の「確かな学力の育成に関して」項目①～⑧全ての回答で、「A･B」が90%以上と高い結果となった。特に①の「A」においては、（1）53%→（2）86%と上昇し、教師の「学習者主体とした授業」を意識した取組が伺える。

●ICT機器の積極的、効果的な活用
〈集計結果及び状況分析〉
・生徒：②「先生方は分かりやすくするためにICTの活用（タブレットなど）や教材の工夫をしていますか」に対して「A･B」（1）96%→（2）93%と回答しており、ICTを活用した授業の展開がほぼ毎日行われていることが伺える。
・職員：②「ICT機器の積極的な活用が図られた」に対して「A･B」（1）100%→（2）95%と回答しており、生徒が感じている通り、ICTを活用した授業の工夫がなされている。
【参考】全国学力学習状況調査
1,2年生の時に受けた授業でPC・タブレット・などのICT機器をどの程度使用しましたか。
（取組の指標：週１回以上使用60%以上）
結果：週1回以上　97.4%
（内訳：ほぼ毎日10.5%　週3回以上47.4%　週1回以上39.5%）
考察：昨年の94.9 %を上回った。ほぼ毎日の使用度が全国、県が30%台であることから、学校や家庭での効果的な使い方をさらに検討していく。
〈本校の取組及び来年度に向けて〉
確かな学力の育成に向けて、2学期は多くの職員が、交流授業や公開授業を通して授業力向上のためのOJT（現場での学び合い）に意欲的に参加した。さらに、「教師主導の授業」から「学習者主体の授業」への授業観の転換を進めるに当たり、ICTの活用や個に応じた学習指導やグループ学習の充実等が図られ、生徒の授業理解や保護者からの高い評価につながった。また、ICT活用に関しては教科の授業はもとより、総合的な学習の時間における調べ学習やプレゼンテーション、成果をまとめるレポートや掲示物、生徒会活動、選挙活動にも積極的な活用が見られた。今後はタブレットを持ち帰らせての活用もさらに進めていく。また、小学校で生徒がどのような活用をしてきているか等小中連携も必要である。引き続き授業改善を日常化し、「授業力」と「生徒指導力」の向上に努めたい。

●④あなたは、自主学習・ノートなどの家庭学習に積極的に取り組んでいますか。
（取組の指標：AB80%以上）
〈集計結果及び状況分析〉
・生徒：「A･B」が（1）80%→（2）69%と約10%下がった。生徒自身、家庭学習への取組について不十分である自覚が見られるとともに、生徒自ら意欲的に取り組めていないと推測される。
・保護者：「A･B」が69%であり、昨年度と同様である。生徒の家庭での様子を知っている保護者が生徒の家庭学習への取組は不十分であると感じている。
・職員：⑤「家庭学習の習慣化と内容の充実が図られたか」は「AB」が（1）95%→（2）100%となった。特に「A」は昨年度15%→（1）35%→（2）48%と高まり、家庭学習への取り組み方を必須と考え学年に応じてさまざまな工夫が見られた。
〈本校の取組及び来年度に向けて〉
全ての学年で、例年のように家庭学習の定着を目指し「自主学習」の取組を行ったり、定期テスト前を中心に、放課後の学習会や家庭学習の取組を行ったりした。また、一昨年度、昨年度に引き続き今年度も1年生は県の学力向上キャラバンによる家庭学習の充実に向けた学習会を２月１２日に実施した。「自己調整力」の必要性を学び、家庭学習に前向きに取り組みたいとする感想が見られた。指標に対する調査は２学期末での結果であり、昨年度に引き続き今年度も指標到達に至らなかった。教師は家庭学習については課題と捉え、取り組んでいるが、生徒の「積極的な実施」に繋がっていない。取組を各学年ごとに交流しあい、検討する必要がある。また、小中連携で、小学校段階からの宿題への取組や自主学習の実施状況を知る必要もある。引き続き、家庭学習の習慣化にも努めていきたい。

●読書活動の推進
〈集計結果及び状況分析〉
【参考】図書貸し出し冊数（取組指標全校で1000冊以上）
結果： 2学期終了現在の全校貸出数1020冊
指標を達成した。図書室を定期的に訪れる生徒もおり、読書意識が高まっていることが伺える。1・2学期の図書委員の取組（読書運動・便りの作成・図書館イベント・町立図書館とのコラボ等）などにより、生徒の読書意欲や読書意識の向上につながっている。
　また、ALTによる読み聞かせを１２月に１回（参加生徒約５０名）、２月に２回（参加生徒:1回９名・2回９名）実施することができ、生徒が図書室へ足を運ぶ機会が増えた。

Ⅱ.豊かな心の育成に関して

●⑥いじめを許さない雰囲気がありますか。（取組の指標：AB 90%以上）
〈集計結果及び状況分析〉
・生徒：「A･B」が（1）91%→（2）90%、「C･D」が約10%となり、前年より「AB」は2%ほど増えた。一方で「⑧他人には思いやりをもって接していますか」では、「A･B」が（1）98%→（2）94%になり、「⑨自分以外の人のために何かしようと心がけていますか」では、（1）93%→（2）90%で高い結果であるが共に1 学期より減少し、さらに「D」が共に2%見られた。
・保護者：⑤「学校はいじめのない正義の通る学校づくりに努めている」の「A･B」が89%とあり、学校の取組に対し、一定の評価をしているとみなすことが出来る。「D」の3%に対して信頼される取り組みを続けていく。
・職員：⑨「いじめを‘許さない’‘させない’指導の徹底がはかられた」の「A･B」が（1）（2）ともに100%である。特に「A」が昨年度75%→90%と高くなった。教師全体で「いじめのない学校」を目指していることが伺える。

【参考】（道徳調査）　（取組の指標：A70%以上）
●「友だちの大切さがわかり、互いを励まし合う努力をしていますか」
結果：「A」よくできている62,1%＜70%　「B」だいたいできている34,5%
（昨年R5年度「A」61，4%　「B」34，5%）
考察:今年度も指標に届かなかった。⑥の結果同様に、「友だちの大切さ」は理解できているが「互いを励まし合う努力」や 行動がまだ、足りないと感じているのではないかと考える。しかし、ＡＢの割合が96，6%であり、学校全体で、学校生活の中で友達を大切にしながら高め合う努力をしている傾向があると思われる。より良い友達関係を作っていこうとする雰囲気が作られているのではないか。
〈本校の取組及び来年度に向けて〉
　「敬愛」～生徒一人一人が大切にされる学校～をスクール・モットーに、生活ノート、日常的な面談、SC・SSW等による相談体制の充実、小学校、町の子育て支援課、生き生き健康課、医療機関等の外部と定期的に連携し、今後も生徒や保護者の思いに寄り添った指導の徹底を図る。また、今年度から「ユニバーサル制服」が導入され、昨年見直された「校則」への意見交換や「心得」の再検討が第2回生徒総会で行われた。「自分で考え」「仲間に相談」「みんなで意見を出し合い」ながら、新たな伝統を語り継いでいく必要がある。また、「特別の教科道徳」では、内容項目２「人間愛・思いやり」「信頼・友情」「寛容・謙虚」「尊敬・感謝」といった他の人との関わりに重点をおいて引き続き指導していく。「いじめをゆるさない雰囲気」については指標は達成しているが、生徒と職員の意識の差に対して対策を講じ、「D」→0%にし、誰一人取り残さない学校づくりに努めていきたい。
　来年度より2年間、県の「道徳教育研究推進校事業」の峡南地区の指定校となった。「考え、議論する道徳」をさらに推進し、本校の課題改善に向けて、教職員が楽しんで研修・研究を進めていきたい。またその内容を地域の学校に向けて情報発信していきたい。

●⑦あなたは、友だちや先生方、来校者などにしっかりあいさつをしていますか。
〈集計結果及び状況分析〉
・生徒：「A・B」が（1）98%→（2）97%で1学期、2学期共に生徒会の取組もあり「あいさつへの意識」が高い結果となった。
・職員：⑫「あいさつ運動の推進が図られた」の「A･B」が（1）94%→（2）100%と回答した。特に「A」が（1）47%→（2）76と高くなり、生徒会の取り組みや学年の声かけ等で生徒の意識が高まり行動に現れてきたことを職員も感じている結果となった。
〈本校の取組及び来年度に向けて〉
　生徒会では「あいさつ運動」を活動の重点とし、SDGｓの視点からも生徒玄関で「あいさつ隊」を編成して取り組んだ。また、廊下等でのすれ違いやワンストップあいさつの取組や毎日の登校時や下校時における職員による校門での指導によっても、その成果が表れている。来校者へのあいさつや登下校時の横断歩道においての会釈など、さらにあいさつに対する高い意識を維持できるよう、継続的な指導に努めていきたい。

Ⅲ．健康・安全の向上に関して

●⑤学校生活は楽しく充実していますか。（取組の指標：AB　85%以上）

〈集計結果及び状況分析〉

・生徒：「A･B」が（1）（2）ともに97%と高い結果となった。多くの生徒が充実した学校生活を送っている様子が伺える。一方で「D」が（1）0%だったものが（2）2%となったことが気になる。引き続き一人一人に寄り添った丁寧な指導をしていく。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

感染防止対策を行いながら、学校行事を推進してきた。そして修学旅行、宿泊学習、校外学習、職場体験、合唱発表会、陵風祭など予定通り実施することが出来た。また、部活動は、大会前の強化週間とテスト前活動停止期間のメリハリを付けて実施した。効率の良い練習内容の工夫等により、各部とも素晴らしい成果をあげることが出来た。⑤の項目に関しては、達成率100%を目指したいところである。今の時点で2%の生徒がいることを念頭に置いて、個人面談やアンケート調査により、生徒に寄り添い、生徒の声を聞き、生徒の思いを把握し、解決に向けての最大限の手立てを講じることができる体制の構築に努めていきたい。昨年度から生徒会で掲げた市川中オリジナルSDGｓ18番目の項目「毎日が幸せと思えるように」を具現化すべく生徒と教員共に取組を進めたい。

●家庭と連携した健康教育の推進

〈集計結果及び状況分析〉

【参考】生活習慣実態調査

『平日の就寝時刻が「零時」以降の割合』（取組の指標：保健調査15%以内）

6月　20名/130名　15.４%　⇒　1月　18名/126名　14.3%

R5年度：6月　１８．１%　⇒　11月　１９．２%

R4年度：6月　18%　⇒　11月　２３%

（養護教諭の考察より）

子ども達がやる気を持って学校生活を過ごす基盤として、睡眠・栄養・運動は見逃してはならない要素である。社会の変化・流れの中で、子ども達のメディア使用時間が長時間化し、それに伴い、睡眠時間の確保が難しくなっている状況（睡眠不足・睡眠負債）を危惧し、睡眠に注目し取り組んだ。睡眠の大切さを伝え、就寝時刻（零時以降の割合）を指標とし、評価した。6月から横ばいの結果であるが、成果だと言える。今年度は指導後の調査としたため、1年生では3名減少した。

〈今年度の取組〉

・1学年：2学期に「タイムスケジュールでパワーUP大作戦！！」学級指導
・全校：保健委員会「睡眠博士になろう」朝読放送
・6月・8月・1月に生活リズム調査を実施し、状況の把握と意識化を図った。
・PTA資料に就寝時刻とメディア使用時間、朝食接種の状況などグラフにし、提示。生活リズムを整えること、メディア使用のルール作りを呼びかけた。

〈来年度に向けての課題〉（R7.1の調査より）

・現状は就寝時刻が遅くなり、起床時刻は7時以降が43.7%になっている。
・朝ごはんを毎日食べない、時々食べないを合わせると11.1%となり、1割が毎日食べていない。食欲がない、時間がない。
・平日のメディア使用時間が3時間以上の生徒は25%（内4時間以上11%）となっており、学習時間や睡眠時間に影響をきたしているのではないかと危惧される。

◎今後も睡眠とメディア使用時間について健康管理と捉えて、継続した取組を行う。
◎指標については変更があっても良い。

●⑭あなたは体力向上のために積極的に運動に取り組んでいますか。

〈集計結果及び状況分析〉

・生徒：「A・B」が（1）89%→（2）80%の回答で前年と同様な結果となった。（2）は3年生の部活動引退や下校時刻が早いことでの部活動時間の短縮も一因と考えられる。

・教員：⑳「体力テストの結果分析と課題の改善が図られた。」に対して「A・B」（1）84%→（2）98%であった。

【参考】立ち幅跳びの4月と12月、１月の記録　（取組指標　新体力テスト10ｃｍ増）

１年生男子	163.3	→	164.8（＋1.5）	１年生女子	159.2	→	148.6（－10.6）
２年生男子	212.3	→	201.7（－10.6）	２年生女子	173.9	→	152.9（－21）
３年生男子	209.3	→	197.5（－11.8）	３年生女子	177.8	→	159.1（－18.7）

（体育主任教諭の考察より）

結果として、全ての学年で「10cm増」を達成することができなかった。また、１年生男子以外の全ての学年、男女で記録が低下してしまった。３年生は、部活動を引退し、運動機会が極端に減ってしまうことが大きな要因として考えられ、この時期の体力の維持や向上には難しさを感じる。また、２回目の検査時の１、２年生については、十分なウォーミングアップが出来ていなかったことや気温が低くかったこと等も要因として考えられるが、１年間を通して、体育の授業や部活動で行ったトレーニングメニューの強度が低かったことも考えられる。今後は、時期や生徒の様子を見ながら、より強度の高いトレーニングメニューを取り入れていくことも必要だと考える。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

季節や体育行事に合わせ体育種目の選択と実施、準備運動など体力向上に向けて体育授業を工夫している。冬場、下校時刻が早いため、12月は部活無しとしているが、帰りの会後から短い放課後にランニングなどの体力作りの実施の要望が今年度も2年生の部長会からあり、10分間実施した。来年度も生徒の意向を聞く中で体力作りをすすめたい。また、体育主任の考察にもあったように３年生は確実に体力が低下する。12月は全校での放課後の体力作りも検討してはどうかと考える。

Ⅳ.地域･保護者との連携に関して

●⑧学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていますか。　（取組の指標：AB85%以上）

〈集計結果及び状況分析〉

・生徒：⑯「積極的に文書やホームページでの発信」については「A・B」が（1）95%→（2）87%と学校の情報提供を評価した。

・保護者：「情報提供」については、「A･B」が93%と高い結果となった。また、⑨「保護者や地域との連携」でも、「A･B」が90%と高い結果となった。しかし、約10%の方が、連携不足を感じている。

・教員：㉕「ホームページの充実」について「A・B」が（1）80%→（2）95%となり、㉖「たよりの計画的な発行」について「A・B」が（1）100%→（2）95%となった。月予定や生徒の活動の様子を発信できた。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

学校としては、各種たよりの発行や学校ホームページを通して、保護者への情報提供や情報共有に取り組んだ。また、今年度は町の広報や山梨日日新聞にも取材をお願いし、地域へも市川中の頑張りを発信できた。さらに、安心・安全メールを効果的に活用し、迅速で正確な情報提供にも努めてきた。来年度も、様々な工夫を凝らし、開かれた学校づくりに努めていきたい。

●㉙小中連携が図られていますか。（取組の指標：A 50%以上）

〈集計結果及び状況分析〉

・職員：「A・B」が（1）69%→（2）86%と2学期は高い評価となった。しかし、「A」は　（1）11%→(2)19%で指標50%をかなり下回った。前年度も40%で指標は50%を達成できなかった。今年度は教科担任制の2年間の小中連携研究指定が終わったこと、さらに年度当初に計画していた小中連携の合同校内研究が3校の日程調整がつかず実施出来なかったことによると考えられる。

●㉗「地域学校協働本部の活動の充実」と㉘「学校・家庭・地域連携推進協議会の活動の充実」さらに㉚「みさと学の推進」

〈集計結果及び状況分析〉

・生徒：⑰「地域が関わっている学習に進んで取り組んでいますか」に対して「A・B」(1) 82%→（2）88%と回答し、生徒が意欲的に取り組めたことがわかる。

・教員：㉗（1）100%→（2）100%　　㉘（1）100%→（2）100%

㉚（1）100%→(2) 100%　の回答で教員も高い評価となった。

〈本校の取組及び来年度に向けて〉

昨年までの2年間、県の研究指定を受け「教科担任制」の研究に小中で連携し、取り組んだ。研修指定は終わったが、引き続き連携を進めていく。今年度も小中それぞれの授業参観や生活参観に全員が参加し異校種授業を見合った。小中合同校内研が実施できなかったが、小学校の校内研究に数名参加することが出来た。今後、児童・生徒に関する情報交換の場を設定し、スムーズな小中接続のための「小中ギャップの解消」に努めていきたい。また、来年度の道徳を中心とした校内研でもの小中の交流をしたいと考えている。

小中合同引渡訓練は保育所とも連携が出来た。また、引渡確定状況を市川中学区内の小中で確認し共通文章で各家庭に示すことが出来た。

地域学校協働本部の活動や学校・家庭・地域連携推進協議会の活動（ほうとうづくり、花植・清掃ボランティア）やみさと学（ふるさとキャリア教育）の活動（1学年の「地域巡り（史跡・企業訪問)」や2学年の「職場体験学習」)等生徒が実際に地域に出てコミュニケーションを取りながら学ぶことや、地域の方々に学校に来ていただき学ぶことが出来充実していた。様々な活動が、地域学校協働活動推進員を介して行うことができ、生徒にも学びと成長があった。

年間を通して、学校の環境整備は学校だけではやりきれない部分がある。PTAや地域の方のボランティアで力をお借りしての実施も検討したい。成果と課題をまとめ、系統的な地域との関わりについて、さらに進めていきたい。